

2015年3月期 第1四半期決算報告

2014/8/8

第一生命保険株式会社

一生涯のパートナー

第一生命

- 第一生命保険の稲垣です。
本日は、第一生命グループの2015年3月期第1四半期の決算報告にご参加いただきまして、ありがとうございます。
- 早速ですが、いつものように、私から資料に沿って決算内容をご説明し、残りの時間を質疑応答とさせていただきます。
- 1ページをご覧ください。

- 国内外の生保各社において保険料等収入が増加したことにより、連結経常収益は増収。
- 国内外の金融環境が良好に推移する中、タイムリーな投資行動が奏効し、第一生命単体の資産運用収支が改善、連結経常利益・連結純利益の大幅な伸びを牽引。第一フロンティア生命の純損失は大幅に縮小、TALも大幅増益。
- 2014年6月末のグループ・エンベディッド・バリュー(試算値)は、グループ各社でエンベディッド・バリューが増加したことで、4.5兆円を超過。

- 今回の決算のポイントを以下の3点にまとめました。
- 第一に、医療・貯蓄・海外の成長分野における保有契約の積み上がりを背景として、国内外の生保各社において保険料等収入が増加し、連結経常収益は増収となりました。
- 第二に、国内外の金融環境が良好に推移する中、タイムリーな投資行動が奏効し、第一生命単体の資産運用収支が改善、連結経常利益・連結純利益の大幅な伸びを牽引しました。また、第一フロンティア生命の純損失は大幅に縮小し、TALも大幅増益となりました。
- 第三に、2014年6月末のグループ・エンベディッド・バリューの試算値は、有価証券の含み益の増加や新契約の獲得などにより、グループ各社でエンベディッド・バリューが増加したことで、約4兆5,500億円となりました。
- 次に2ページをご覧ください。

- 第一フロンティア生命をはじめ、好調な保険販売が増収を牽引
- 第一生命単体の資産運用収支改善や、連結子会社の利益貢献の拡大で大幅増益

(億円)

	14/3期 1Q	15/3期 1Q (a)	前年同期比	
連結経常収益	14,360	16,540	+2,179	+15%
第一生命単体	10,878	11,395	+517	+5%
連結経常利益	842	1,249	+407	+48%
第一生命単体	1,013	1,226	+212	+21%
連結純利益	263	684	+421	+160%
第一生命単体	428	680	+251	+59%

<参考>

2014/5/15 発表予想	2014/8/8 発表予想(b)	進捗率(a/b)
53,490	56,070	29%
40,740	40,740	28%
2,460	2,460	51%
2,390	2,390	51%
800	800	86%
790	790	86%

- 業績ハイライトをお示ししています。
- 連結経常収益は前年同期比15%増の1兆6,540億円、連結経常利益は同48%増の1,249億円、連結純利益は同160%増の684億円と、大幅増収・増益となりました。
- この後詳しく説明しますが、第一フロンティア生命における好調な保険販売を踏まえ、連結経常収益の通期予想を上方修正しました。
- また、第一生命単体における資産運用収支の改善や、連結子会社の利益貢献の拡大により、通期予想に対する進捗率は連結経常利益で51%、連結純利益で86%と高い水準になりました。
- 次に3ページをご覧ください

■ 好調な保険販売と資産運用収支の改善が、業績に貢献

連結損益計算書(要約)⁽¹⁾

	14/3期 1Q	15/3期 1Q	増減
経常収益	14,360	16,540	+2,179
保険料等収入	10,012	12,252	+2,239
資産運用収益	3,391	3,535	+144
うち利息・配当金等収入	1,873	1,993	+120
うち有価証券売却益	851	724	△126
うち特別勘定資産運用益	547	725	+178
その他経常収益	956	751	△204
経常費用	13,518	15,291	+1,772
うち保険金等支払金	7,353	7,552	+198
うち責任準備金等繰入額	3,059	5,049	+1,989
うち資産運用費用	650	346	△303
うち有価証券売却損	143	47	△95
うち有価証券評価損	13	3	△9
うち金融派生商品費用	86	10	△76
うち事業費	1,195	1,284	+89
経常利益	842	1,249	+407
特別利益	3	0	△2
特別損失	162	49	△112
契約者配当準備金繰入額	185	204	+18
税金等調整前純利益	498	996	+498
法人税等合計	251	311	+59
少数株主利益(△は損失)	△16	0	+16
純利益	263	684	+421

連結貸借対照表(要約)

	14/3末	14/6末	増減
資産の部合計	377,051	385,473	+8,421
うち現金・コール	10,613	10,984	+370
うち買入金銭債権	2,818	2,799	△19
うち有価証券	312,035	319,738	+7,702
うち貸付金	30,247	30,233	△13
うち有形固定資産	12,158	12,094	△64
うち繰延税金資産	57	17	△40
負債の部合計	357,575	363,789	+6,213
うち保険契約準備金	333,275	338,080	+4,804
うち責任準備金	325,749	330,794	+5,045
うち退職給付に係る負債	3,854	3,698	△155
うち価格変動準備金	1,181	1,219	+37
うち繰延税金負債	151	758	+607
純資産の部合計	19,476	21,683	+2,207
うち株主資本合計	6,285	6,893	+608
うちその他の包括利益累計額合計	13,184	14,784	+1,600
うちその他有価証券評価差額金	13,227	14,899	+1,672
うち土地再評価差額金	△383	△387	△4

(1) 特別勘定資産運用損(益)は、責任準備金の戻入れ(繰入れ)で相殺されるため、経常利益には影響するものではありません

3

- 連結主要収支の詳細をご説明します。
- 経常収益の増加は保険料等収入が前年同期比約2,000億円増加したことが主な要因です。利息配当金等収入は同約100億円増加しておりますが、このうち約半分は第一生命単体での増加です。詳細は参考データの17ページでお示しましたが、第一生命は今四半期は順ざやとなりました。
- 経常費用項目では、責任準備金等繰入額が同約2,000億円増加していますが、これは主に保険販売の増加によるものです。一方、資産運用費用は、主に有価証券売却損、金融派生商品費用の他、為替差損が減少したことで同約300億円減少となりました。以上のことから、経常利益・純利益は大幅に改善しました。
- 次に4ページをご覧ください。

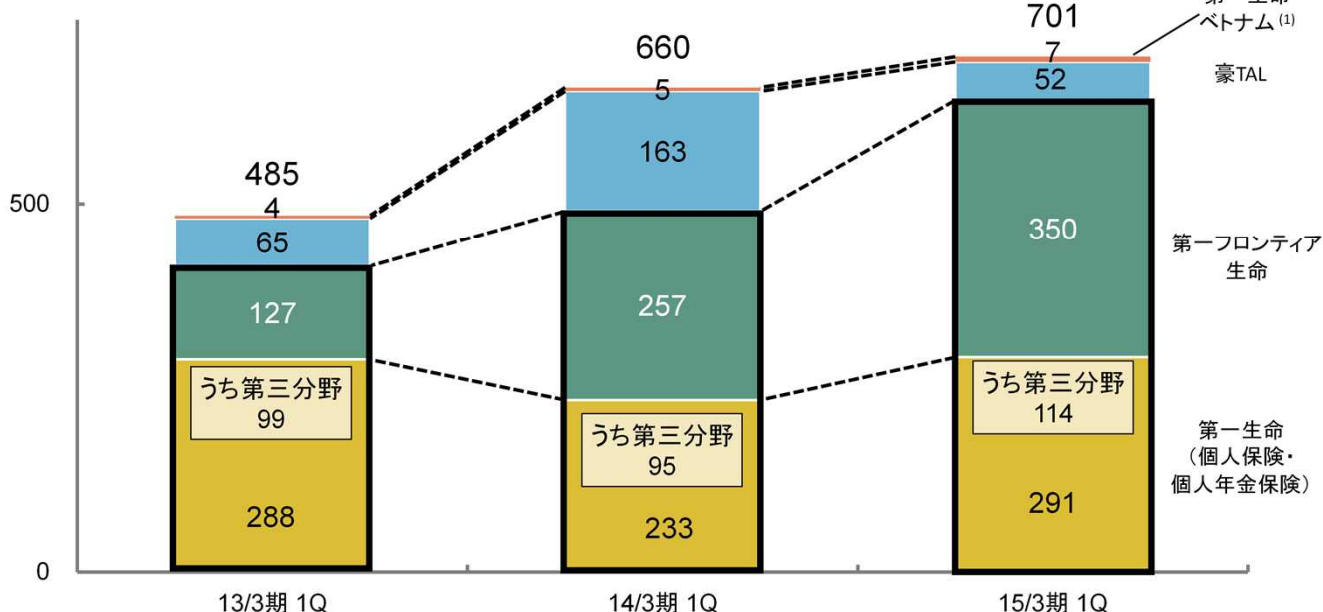
	【第一生命】			【第一フロンティア生命】			【豪TAL】 ⁽¹⁾			【連結】		
	(億円)			(億円)			(百万豪ドル)			(億円)		
	14/3期 1Q	15/3期 1Q	前年 同期比	14/3期 1Q	15/3期 1Q	前年 同期比	14/3期 1Q	15/3期 1Q	前年 同期比	14/3期 1Q	15/3期 1Q	前年 同期比
経常収益	10,878	11,395	+5%	3,050	4,583	+50%	660	793	+20%	14,360	16,540	+15%
保険料等収入	6,732	7,567	+12%	2,840	4,039	+42%	520	665	+28%	10,012	12,252	+22%
資産運用収益	3,189	2,999	△6%	210	544	+159%	43	59	+37%	3,391	3,535	+4%
経常費用	9,864	10,169	+3%	3,213	4,597	+43%	639	738	+15%	13,518	15,291	+13%
保険金等支払金	5,982	6,246	+4%	1,091	887	△19%	355	444	+25%	7,353	7,552	+3%
責任準備金等繰入額	1,243	1,639	+32%	1,811	3,454	+91%	125	116	△7%	3,059	5,049	+65%
資産運用費用	454	350	△23%	202	34	△83%	7	8	+9%	650	346	△47%
事業費	965	935	△3%	100	198	+98%	130	141	+8%	1,195	1,284	+7%
経常利益(△は損失)	1,013	1,226	+21%	△ 162	△ 13	—	20	55	+170%	842	1,249	+48%
特別利益	3	0	△74%	—	—	—	—	—	—	3	0	△74%
特別損失	160	46	△71%	1	3	+194%	—	—	—	162	49	△69%
少数株主利益(△は損失)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	△ 16	0	—
純利益(△は損失)	428	680	+59%	△ 163	△ 17	—	9	42	+352%	263	684	+160%

(1) 豪TALの数値は、オーストラリアの会計基準で作成した財務諸表を、当社の開示基準に準じて組み替えた上で開示しております

- グループ各社の決算についてコメントします。
- 第一生命単体では、前年同期に見られた保険販売の落込みから回復し、保険料等収入は前年同期比12%増となりました。また、利息配当金等収入や有価証券売却損益など、資産運用収支も良好に推移した結果、純利益は同59%増となりました。
- 第一フロンティア生命では高水準の保険販売が続き、保険料等収入は同42%増となりました。これに伴い、責任準備金等繰入額も増加しましたが、純損失は17億円と、前年同期から大幅な改善となりました。
- オーストラリアのTAL社の保険料等収入は、現地通貨建てで同28%増となりました。昨年度来増加していた支払請求への対策が奏効したことや、豪州における市場金利の低下により純利益は同352%増となりました。
- 次に5ページをご覧ください。

第一生命グループの新契約年換算保険料

(億円)

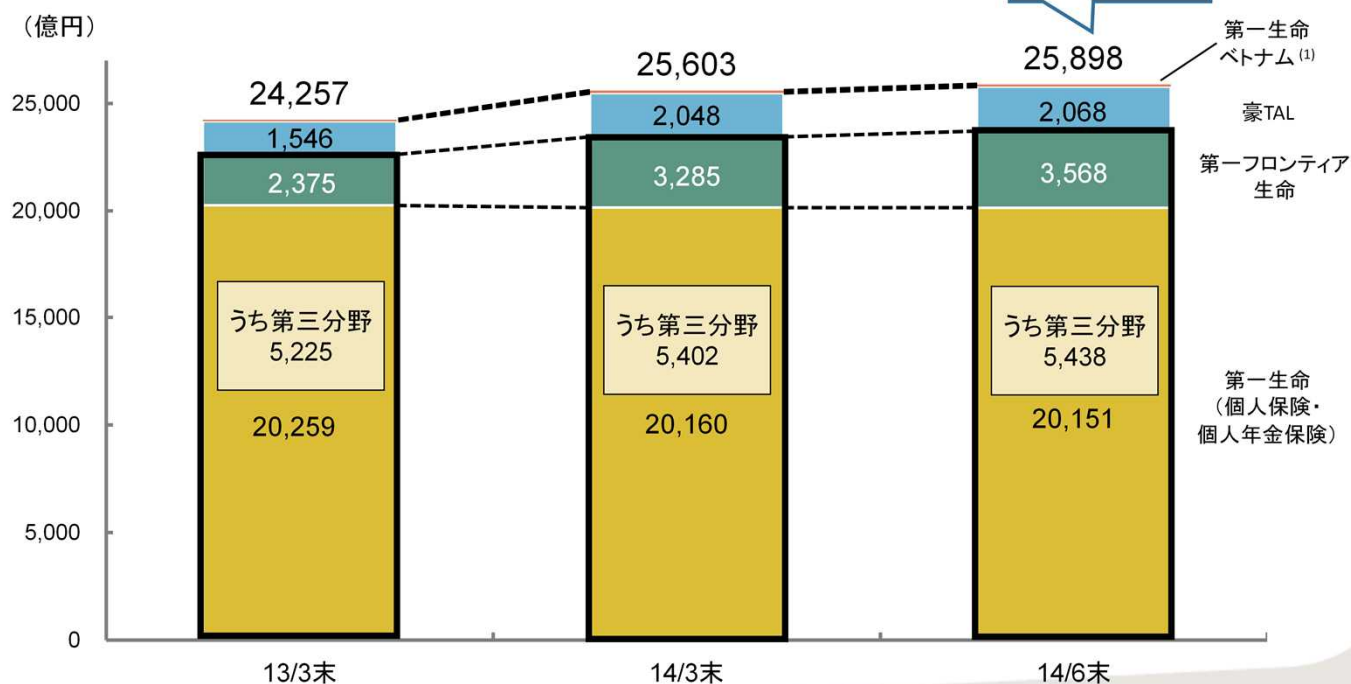


(1) 第一生命ベトナムの決算日は12月31日です。

5

- 契約動向について年換算保険料ベースでご説明します。このスライドでは新契約の動向をお示ししています。
- 第一生命単体の新契約は前年同期比24.4%の増加となりました。これは、前年4月に実施した料率改定に伴う販売減からの回復が主な要因です。また、第三分野商品の販売も好調に推移し、新契約は同20.4%の増加となりました。
- 第一フロンティア生命の新契約は同36.0%増と好調を維持しています。詳細は11ページで説明します。
- TALの新契約は現地通貨建てで同69.5%減、円建てで同68.0%減となりました。これは、前年同期に見られた、団体保険の料率改定の効果が剥落したことが主な要因です。詳細は12ページで説明します。
- 第一生命ベトナムの新契約は現地通貨建てで同30.7%増、円建てで同42.3%増となりました。
- グループ全体の新契約は同6.1%増とプラス成長を維持しています。
- 次に6ページをご覧ください。

第一生命グループの保有契約年換算保険料



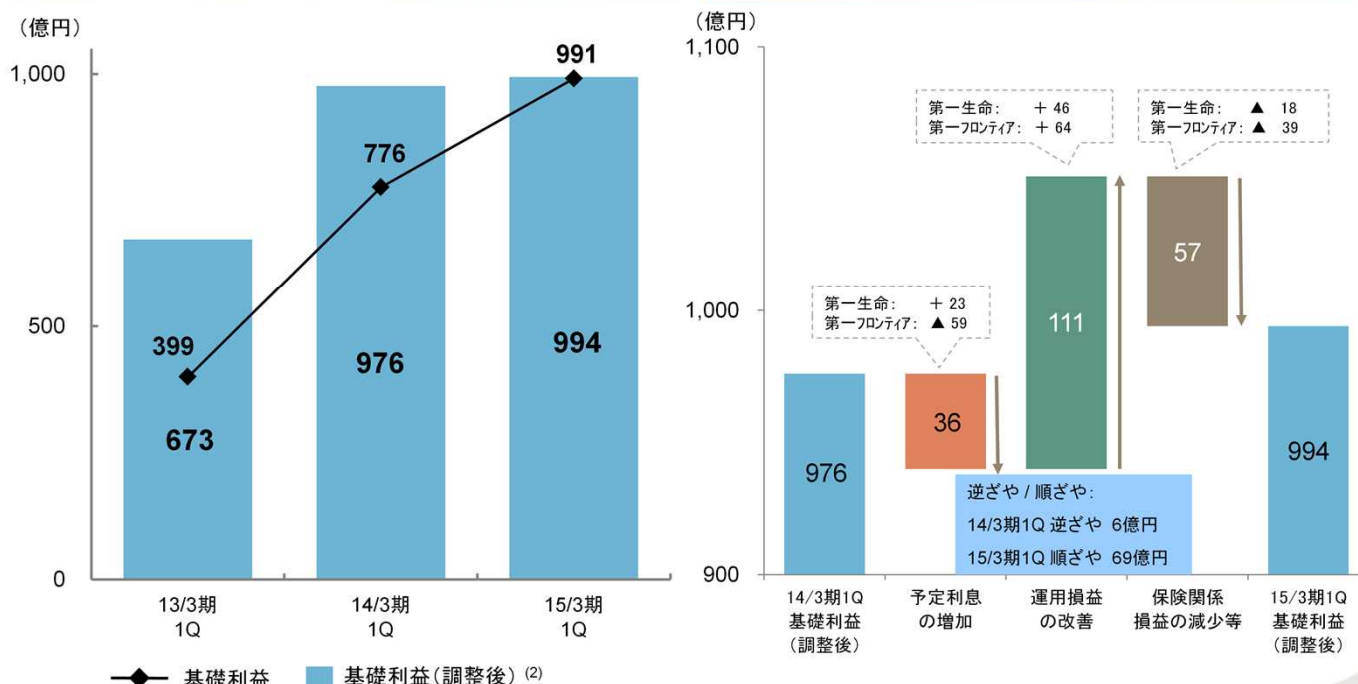
(1) 第一生命ベトナムの決算日は12月31日です。13/3末、14/3末、14/6末の第一生命ベトナムの保有契約年換算保険料はそれぞれ75億円、108億円、109億円です。

6

- 保有契約の動向をお示ししています。
- 第一生命単体の保有契約は前期末比横ばいとなりました。うち、第三分野の保有契約は同0.7%増でした。第一フロンティア生命では同8.6%増、TALでは現地通貨建てで同0.7%増、円建てで同1.0%増となりました。第一生命ベトナムも堅調に保有契約を積み上げました。
- その結果、グループ全体の保有契約は同1.2%増とプラス成長を維持しました。
- 次に7ページをご覧ください。

基礎利益 (1)

基礎利益(調整後)の変動要因 (1)(2)



(1) 第一生命と第一フロンティア生命の合算ベース

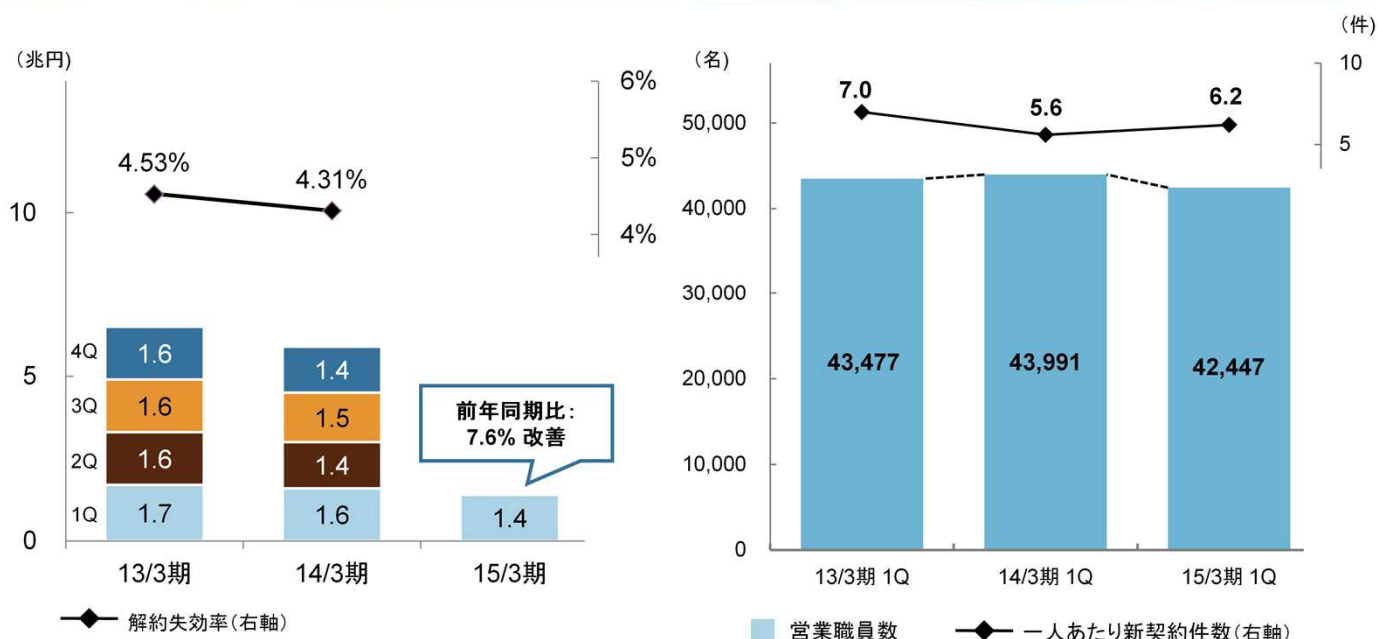
(2) 基礎利益(調整後) = 基礎利益 ± 変額年金の最低保証に係る責任準備金繰入(戻入)額

7

- 国内生保事業の基礎利益についてご説明します。
- 第一生命と第一フロンティア生命合算の基礎利益は、変額年金の最低保証に係る責任準備金の繰入れ・戻入れが一時的な変動要因として影響します。この影響を除いた調整後の基礎利益は左の棒グラフで示されるように、前年同期の976億円から994億円へと増加しました。
- 第一生命単体では、追加責任準備金繰入れ効果などにより予定利息が23億円減少した一方、前年同期に比べて外貨建資産からの利息配当金等収入が増加した結果、運用損益は46億円改善しました。
- 第一フロンティア生命の基礎利益は定額商品の販売増を背景に利差益が拡大しています。特に外貨建保険商品の販売好調が続いていますが、こうした商品には市場価格調整機能が付加されています。当第1四半期は、豪州金利の低下に伴い保有債券の含み益が増加し、これに連動して解約返戻金相当額も増加したため、責任準備金の繰入れが発生しました。このような市場価格調整により保険関係損益が押し下げられましたが、保有債券の価格が上昇しているため、経済価値ベースでは影響ありません。
- 次に8ページをご覧ください。

解約失効高(個人保険・個人年金)

営業職員数および生産性 (1)(2)

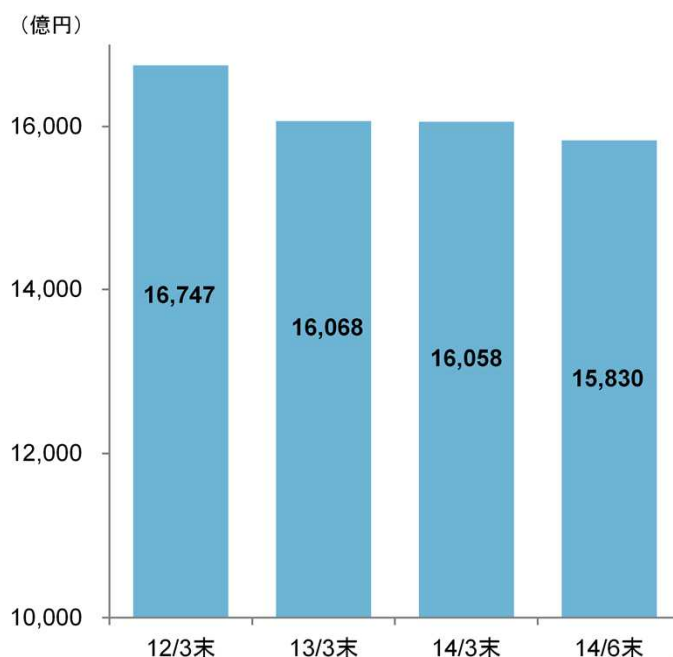
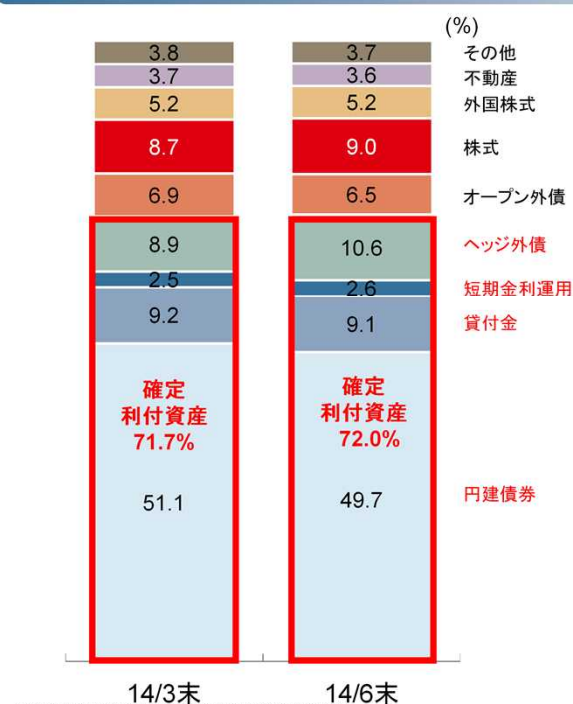


(1) 営業職員については、第一生命と委任契約を締結しかつ生命保険募集人登録をしている者のうち、補助的業務に従事する者を除いております。
 (2) 各期間における新契約件数(転換含む)を分子、各期間の営業職員数(補助的業務に従事する者を除く)の平均値を分母として計算しています。

- 左のグラフは第一生命単体の解約失効高ならびに解約失効率の状況を示しています。解約失効対策として、過去からの継続的な取組みに加え、お客さま接点を強化した結果、解約失効高は前年同期比7.6%減と改善を続けています。
- 右のグラフは営業職員数と営業職員1人あたり新契約件数の推移を示しています。第2・第4四半期はEVレポートの開示により新契約価値で営業の効率性を示しておりますが、第1・第3四半期は代わりに件数で営業の効率性を示します。営業職員数は減少したものの、4万名を超える人員を維持しています。また、新契約件数は前年同期比で増加しており、1人あたり新契約件数は改善しました。
- 次に9ページをご覧ください。

資産の構成(一般勘定) (1)

国内株式の簿価 (2)



(1) 貸借対照表価額ベース

(2) 国内株式のうち時価のあるもの(子会社・関連会社株式、非上場国内株式は除く)

9

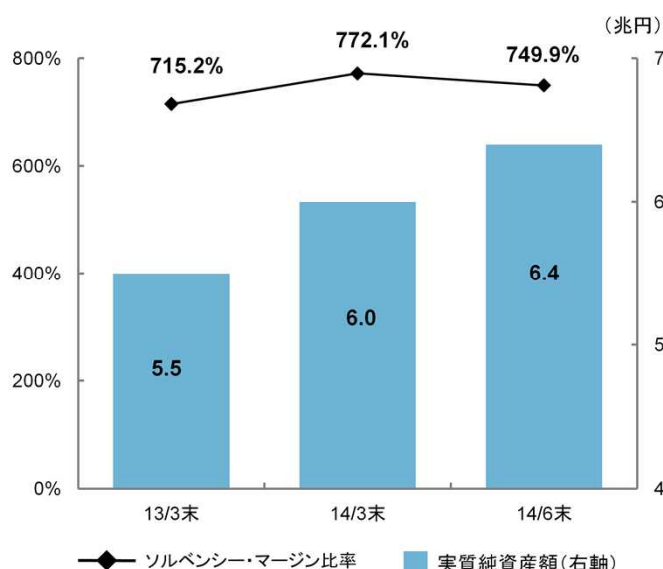
- 資産運用の状況についてご説明します。
- 左のグラフは第一生命単体の一般勘定資産の構成比を示しています。引き続き、ALMと厳格なリスク管理の考え方に基づいて、円建債券など確定利付資産中心の運用を行っています。本第1四半期は、国内で低金利が継続したことを踏まえ、為替ヘッジ付きの外貨建債券への配分を増やしました。
- 国内株式の保有比率は、時価の増加を要因として、前期末の8.7%から9.0%へ上昇しました。右のグラフで示した国内株式の簿価残高は、金融環境の変化を慎重に見極めつつ、機動的な資金配分を進めた結果、前期末比で減少しています。
- 次に10ページをご覧ください。

含み損益(一般勘定)

	14/3末	14/6末	増減
有価証券	30,056	33,785	+3,729
国内債券	13,813	15,405	+1,592
国内株式	9,318	10,871	+1,553
外国証券	6,422	7,027	+604
不動産	482	479	△2
その他共計	30,505	34,131	+3,626

(億円)

ソルベンシー・マージン比率
および実質純資産額

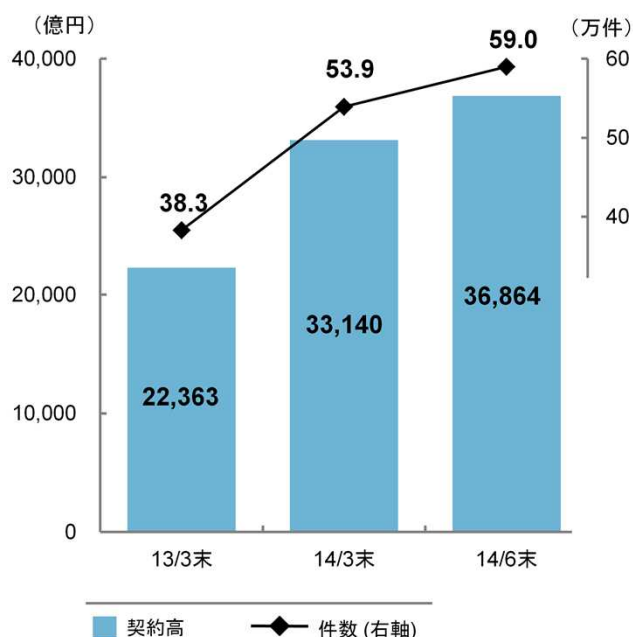


<参考> 連結ソルベンシー・マージン比率:

2014年6月末 737.6%

- 第一生命単体の健全性についてご説明します。
- 左の表では一般勘定各資産の含み益の変化を示しています。前期末と比較すると、内外の金利低下と株価上昇により有価証券の含み益が増加し、一般勘定資産全体で含み益は約3,600億円増加しました。
- 右の折れ線グラフで示したソルベンシー・マージン比率は、資産運用リスクの増加を主な要因として、前期末に比べ22.2ポイント低下し、749.9%となりました。
- 次に11ページをご覧ください。

保有契約高・件数



収支の状況

(億円)		
	14/3期 1Q	15/3期 1Q
経常収益	3,050	4,583
うち保険料等収入	2,840	4,039
うち変額商品	1,359	443
うち円建定額商品	607	710
うち外貨建定額商品	530	2,516
うち資産運用収益	210	544
うち最低保証リスクに対するヘッジ利益(A)	0	-
経常費用	3,213	4,597
うち責任準備金等繰入額	1,811	3,454
うち最低保証リスクに係る責任準備金繰入額(△は戻入)(B)	204	4
うち市場価格調整(MVA)に係る責任準備金繰入額(△は戻入)(C)	△ 1	49
うち危険準備金繰入額(D)	46	37
うち資産運用費用	202	34
うち最低保証リスクに対するヘッジ損失(E)	-	19
経常利益(△は損失)	△ 162	△ 13
純利益(△は損失)	△ 163	△ 17
純利益 - (A)+(B)+(C)+(D)+(E)	85	93

- 第一フロンティア生命の状況についてご説明します。
- 当四半期は、外貨建商品を中心に保険販売の好調が続き、保険料等収入は前年同期比42.2%増の4,039億円となりました。保有契約高は3.6兆円に達しています。
- 経常費用については、前年同期には、相場変動に伴い変額年金の最低保証に係る責任準備金の繰入れ負担が発生しましたが、当四半期は内外の金融環境が安定していたため、このようなノイズは限定的でした。こうした結果、純損失は前年同期比で大幅に縮小しました。
- また、参考として表の下段に、最低保証に係る責任準備金繰入額やヘッジ損益等、市場変動要因を除く第一フロンティア生命の基礎的収益力といえる数値を記載しています。7ページで示しました通り、今四半期は、市場価格調整に係る責任準備金の繰入れがノイズとなったため、こちらも調整項目に加えております。基礎的収益力は保有契約の積み上がりを背景に増加しました。
- 次に12ページをご覧ください。

主要業績

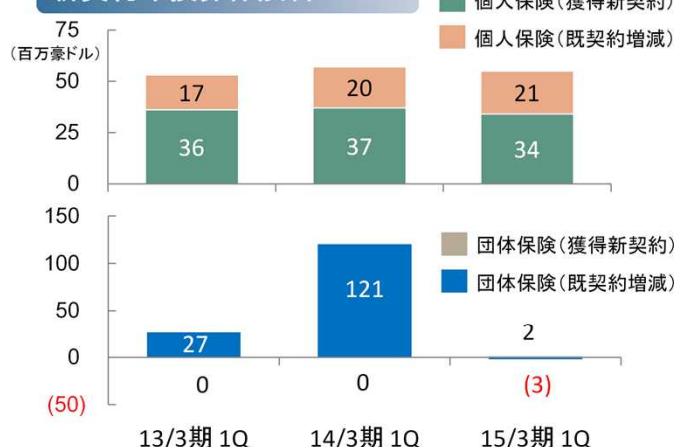
	14/3期 1Q	15/3期 1Q	前年 同期比
経常収益 ⁽²⁾	660	793	+20%
うち保険料等収入 ⁽²⁾	520	665	+28%
経常利益 ⁽²⁾	20	55	+170%
純利益(A) ⁽²⁾	9	42	+352%
修正額(B)	13	△ 8	
うち負債割引率の変化	4	△ 15	
うち償却負担	5	5	
その他	4	1	
修正利益=(A)+(B) (Underlying profit)	22	33	+48%

＜参考＞

	13/6末	14/6末
為替レート(豪ドル)	91.12円	95.50円

(1) 連結対象の豪持株会社 (TAL Dai-ichi Life Australia Pty Ltd) に係る数値
(2) オーストラリアの会計基準で作成した財務諸表を、当社の開示基準に準じて組み替えた上で開示しております(修正額及び修正利益を除く)

新契約年換算保険料



保有契約年換算保険料



- TALの状況についてご説明します。
- 右上にお示ししています新契約年換算保険料は、今四半期より、新契約の獲得と既契約に関する調整を分けてお示しします。TALの豪ドル建ての新契約年換算保険料は、個人保険で前年同期比8.0%減、団体保険では、新契約を獲得したものの前年同期に実施した料率改定の効果が剥落したことから前年同期比で大幅減となり、TAL全体では同2.1%減となりました。
- 一方、保有契約年換算保険料は契約の拡大と、団体保険における料率改定の効果により積み上がっており、これを背景に保険料等収入は前年同期比27.9%増となりました。純利益は、金利変動を背景とする会計的影響と、支払請求対策の効果により、同351.9%増でした。
- 金利の上昇は国際会計基準を採用するTALのバランスシート構造上、利益を押し下げる要因になります。前年同期は金利が上昇していたため、純利益を約4百万豪ドル押し下げていましたが、当四半期は市場金利が下落に転じ、純利益を約15百万豪ドル押し上げています。これにより会計上の利益は前年同期比約19百万豪ドル増加しました。
- こうした金利変動による影響等を除いても、修正利益は同47.6%増となりました。団体保険における料率改定などの対応を強化した結果の改善となりました。
- 次に13ページをご覧ください。

- 第一フロンティアの好調な保険販売を背景に、連結経常収益の業績予想を上方修正
- 連結経常利益・当期純利益は、現時点では業績予想を据え置き

(億円)

(参考)

	14/3期	15/3期(予) ※2014/8/8 発表予想	増減	15/3期(予) ※2014/5/15 発表予想
経常収益	60,449	56,070	△ 4,379	53,490
第一生命単体	43,846	40,740	△ 3,106	40,740
第一フロンティア	14,178	12,290	△ 1,888	9,720
TAL (百万豪ドル)	2,849	3,440	+ 590	3,440
経常利益	3,047	2,460	△ 587	2,460
第一生命単体	3,076	2,390	△ 686	2,390
第一フロンティア	△ 158	△ 40	+ 118	△ 40
TAL (百万豪ドル)	139	130	△ 9	130
当期純利益	779	800	+ 20	800
第一生命単体	855	790	△ 65	790
第一フロンティア ⁽¹⁾	△ 152	△ 60	+ 92	△ 60
TAL (百万豪ドル)	90	90	+ 0	90
1株当たり配当金	20円	25円	+5円	25円

(参考:基礎利益)

第一生命・第一フロンティア合算	4,284	3,600程度	△ 684	3,600程度
第一生命単体	3,998	3,400程度	△ 598	3,400程度

(1) 持分考慮後(2014年3月期)

13

- 続いて第一生命グループの2015年3月期連結業績予想についてご説明します。
- 冒頭でお示した通り、当四半期の業績は通期業績予想に対して高い進捗となりました。また、第一フロンティア生命における好調な販売実績を踏まえ、通期の保険料等収入の増加が見込まれることから、同社ならびに連結ベースでの経常収益の通期予想を上方修正しました。
- 連結経常利益、純利益も高い進捗となりましたが、これは機動的な投資行動により有価証券売却益を計上したためであり、第2四半期以降は同水準の実現益を見込んでいないこと、また、現在検討が進められている法人税減税の決算への影響を見極める必要があることから、現時点では通期の業績予想を据え置きとします。
- 次に14ページをご覧ください。

■ 良好な経済環境、新契約の獲得によりグループEEVは増加

第一生命グループのEEV(試算値)

(億円)

	14/3末	14/6末	増減
EEV	42,947	約45,500	約+2,500
修正純資産	34,313	約37,900	約+3,600
保有契約価値	8,633	約7,600	約△1,100

第一生命(単体、試算値)

(億円)

	14/3末	14/6末	増減
EEV	42,685	約45,000	約+2,300
修正純資産	35,209	約38,600	約+3,400
保有契約価値	7,476	約6,400	約△1,100

第一フロンティア生命(試算値)

(億円)

	14/3末	14/6末	増減
EEV	1,638	約1,800	約+200
修正純資産	1,344	約1,500	約+200
保有契約価値	293	約300	約△0

TAL(試算値)

(億円)

	14/3末	14/6末	増減
EEV	1,863	約2,000	約+200
修正純資産	999	約1,100	約+100
保有契約価値	863	約900	約+0

<参考> TAL(豪ドルベース、試算値)

(百万豪ドル)

	14/3末	14/6末	増減
EEV	1,957	約2,100	約+200
修正純資産	1,050	約1,200	約+100
保有契約価値	907	約900	約+0

14/3末EEV: 14/3末の為替レート(1豪ドル=95.19円)を使用

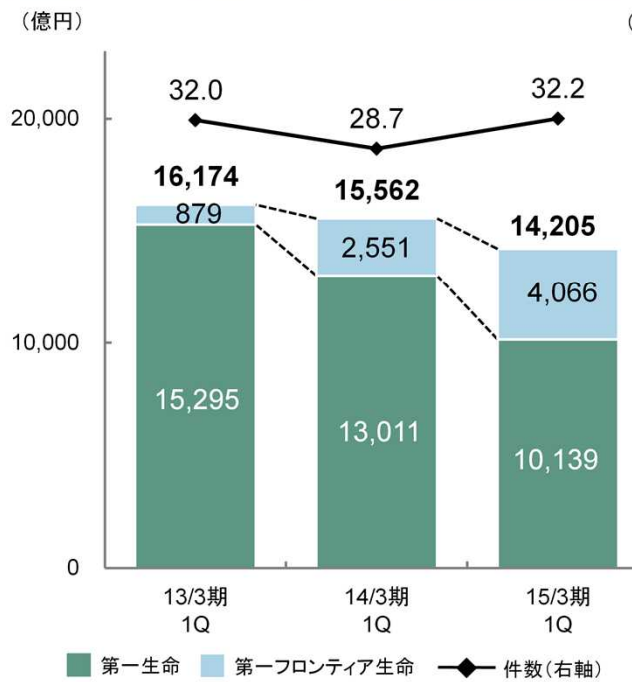
14/6末EEV: 14/6末の為替レート(1豪ドル=95.50円)を使用

14

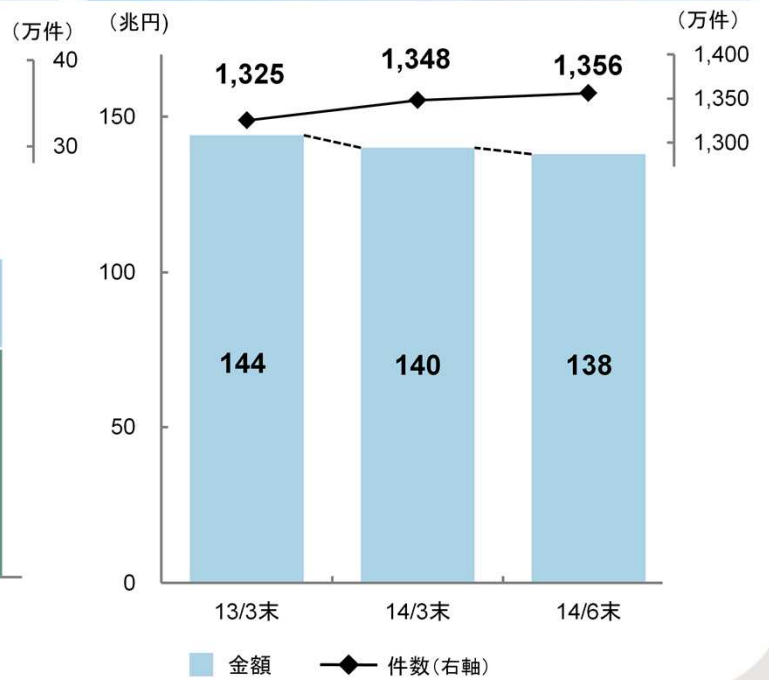
- 2014年6月末の保有契約をベースに6月末の経済前提を使ったグループ・エンベディッド・バリューの試算を行っています。
- 2014年6月末のEVは修正純資産が約3兆7,900億円、保有契約価値が約7,600億円で、合計約4兆5,500億円となりました。2014年3月末に比べ約2,500億円の増加となります。
- 修正純資産は主に有価証券含み益の増加により、約3,600億円増加しました。
- 保有契約価値は金利下落により約1,100億円減少しました。
- グループ各社で、EVは増加しました。
- 以上で私からの説明を終了させていただきます。

参考データ

新契約高 (1)

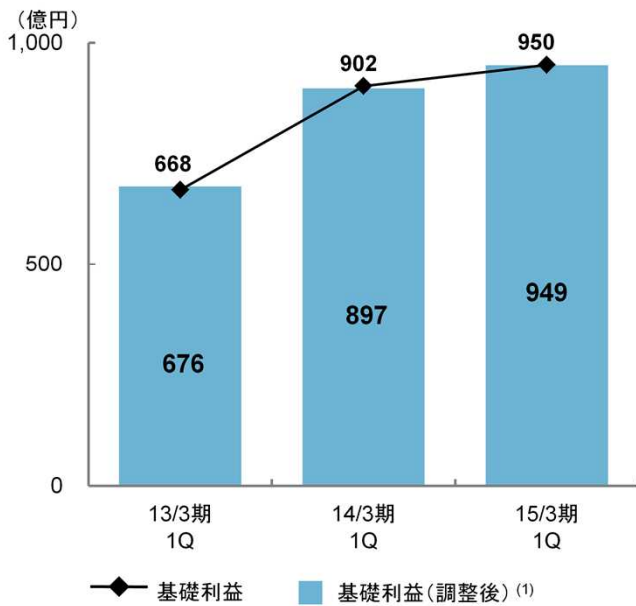


保有契約高 (1)

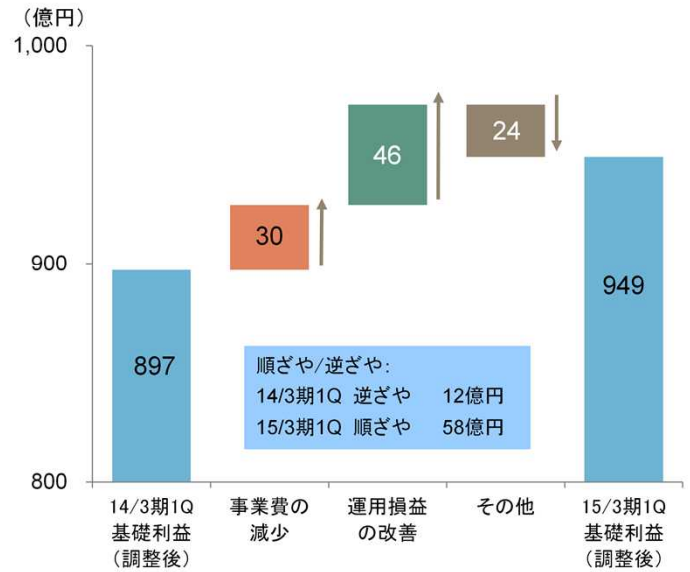


(1) 第一生命と第一フロンティア生命の合算ベース

基礎利益



基礎利益(調整後)の変動要因⁽¹⁾



(1) 基礎利益(調整後) = 基礎利益 ± 変額年金の最低保証に係る責任準備金繰入(戻入)額

損益計算書⁽¹⁾

(億円)

	14/3期 1Q	15/3期 1Q	増減
経常収益	10,878	11,395	+517
保険料等収入	6,732	7,567	+835
資産運用収益	3,189	2,999	△190
うち利息・配当金等収入	1,867	1,925	+57
うち有価証券売却益	789	721	△68
うち特別勘定資産運用益	455	302	△152
その他経常収益	957	828	△128
経常費用	9,864	10,169	+304
うち保険金等支払金	5,982	6,246	+264
うち責任準備金等繰入額	1,243	1,639	+396
うち資産運用費用	454	350	△103
うち有価証券売却損	143	46	△96
うち有価証券評価損	13	3	△9
うち事業費	965	935	△30
経常利益	1,013	1,226	+212
特別利益	3	0	△2
特別損失	160	46	△114
契約者配当準備金繰入額	185	204	+18
税引前純利益	670	976	+305
法人税等合計	242	295	+53
純利益	428	680	+251

貸借対照表

(億円)

	14/3末	14/6末	増減
資産の部合計	340,288	344,898	+4,610
うち現預金・コール	9,084	9,381	+296
うち買入金銭債権	2,758	2,738	△19
うち有価証券	280,051	284,226	+4,175
うち貸付金	30,231	30,218	△12
うち有形固定資産	12,155	12,091	△64
うち繰延税金資産	111	-	△111
負債の部合計	320,569	323,078	+2,509
うち保険契約準備金	297,440	298,714	+1,274
うち責任準備金	291,992	293,610	+1,617
うち危険準備金	5,310	5,355	+45
うち退職給付引当金	4,071	3,921	△150
うち価格変動準備金	1,164	1,199	+35
うち繰延税金負債	-	493	+493
純資産の部合計	19,718	21,819	+2,101
うち株主資本合計	6,962	7,556	+594
うち評価・換算差額等合計	12,749	14,258	+1,508
うちその他有価証券評価差額金	13,158	14,741	+1,582
うち土地再評価差額金	△383	△387	△4

(1) 特別勘定資産運用損(益)は、責任準備金の戻入れ(繰入れ)で相殺されるため、
経常利益に影響するものではありません

損益計算書

	(億円)		
	14/3期 1Q	15/3期 1Q	増減
経常収益	3,050	4,583	+1,532
うち保険料等収入	2,840	4,039	+1,198
うち資産運用収益	210	544	+333
経常費用	3,213	4,597	+1,383
うち保険金等支払金	1,091	887	△203
うち責任準備金等繰入額	1,811	3,454	+1,643
うち資産運用費用	202	34	△167
うち事業費	100	198	+98
経常利益(△は損失)	△162	△13	+148
特別損益	△1	△3	△2
税引前純利益(△は損失)	△163	△17	+146
法人税等合計	△0	0	+0
純利益(△は損失)	△163	△17	+146

貸借対照表

	(億円)		
	14/3末	14/6末	増減
資産の部合計	33,924	37,557	+3,633
うち現預金・コール	780	753	△27
うち有価証券	32,206	35,781	+3,574
負債の部合計	33,440	37,004	+3,563
うち保険契約準備金	32,883	36,337	+3,454
うち責任準備金	32,858	36,306	+3,447
うち危険準備金	1,072	1,110	+37
純資産の部合計	483	552	+69
うち株主資本合計	403	386	△17
資本金	1,175	1,175	-
資本剰余金	675	675	-
利益剰余金	△1,446	△1,463	△17

損益計算書⁽¹⁾⁽²⁾

(百万豪ドル)

	14/3期 1Q	15/3期 1Q	増減
経常収益	660	793	+132
保険料等収入	520	665	+145
資産運用収益	43	59	+15
その他経常収益	96	68	△28
経常費用	639	738	+98
保険金等支払金	355	444	+89
責任準備金等繰入額	125	116	△9
資産運用費用	7	8	+0
事業費	130	141	+10
その他経常費用	20	27	+7
経常利益	20	55	+34
法人税等	11	13	+1
純利益	9	42	+32
修正利益 (Underlying profit)	22	33	+10

貸借対照表⁽¹⁾⁽²⁾

(百万豪ドル)

	14/3末	14/6末	増減
資産の部合計	6,086	6,245	+159
現預金	676	781	+105
有価証券	2,852	2,865	+13
有形固定資産	0	0	△0
無形固定資産	1,271	1,263	△7
のれん	791	791	-
その他の無形固定資産	480	472	△7
再保険貸	72	99	+26
その他資産	1,213	1,234	+20
負債の部合計	4,184	4,301	+117
保険契約準備金	2,960	3,027	+66
再保険借	385	385	+0
その他負債	721	770	+49
繰延税金負債	117	117	+0
純資産の部合計	1,901	1,943	+42
株主資本合計	1,901	1,943	+42
資本金	1,630	1,630	-
利益剰余金	270	313	+42

(1) 連結対象の豪持株会社 (TAL Dai-ichi Life Australia Pty Ltd) に係る数値

(2) オーストラリアの会計基準で作成した財務諸表を、当社の開示基準に準じて組み替えた上で開示しております(修正利益を除く)

	感応度 ⁽¹⁾	含み損益ゼロ水準 ⁽²⁾
国内株式	日経平均株価 1,000円の変動で 1,700億円の増減 (2014年3月末: 1,700億円)	日経平均株価 ¥8,800 (2014年3月末: ¥9,200)
国内債券	10年国債利回り 10bpの変動で 2,400億円の増減※ (2014年3月末: 2,400億円) ※その他有価証券区分: 300億円の増減 (2014年3月末: 300億円)	10年国債利回り 1.2% ※ (2014年3月末: 1.2%) ※その他有価証券区分: 1.4% (2014年3月末: 1.4%)
外国証券	ドル/円 1円の変動で 280億円の増減 (2014年3月末: 280億円)	ドル/円 \$1 = ¥89 (2014年3月末: ¥89)

(1) 各指標に対応する資産の時価総額の感応度

(2) 各指標に対応する資産の含み損益がゼロとなる水準。外国証券はドル円換算にて算出した、為替要因のみの含み損益がゼロになる水準

本資料の問い合わせ先
第一生命保険株式会社
経営企画部 IR室
電話:050-3780-6930

免責事項

本プレゼンテーション資料の作成にあたり、第一生命保険株式会社(以下「当社」という。)は当社が入手可能なあらゆる情報の正確性及完全性に依拠し、それを前提としていますが、その正確性または完全性について、当社は何ら表明または保証するものではありません。本プレゼンテーション資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。本プレゼンテーション資料およびその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が公開または利用することはできません。

将来の業績に関して本プレゼンテーション資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。将来予想に関する記述には、これに限りませんが「信じる」、「予期する」、「計画」、「戦略」、「期待する」、「予想する」、「予測する」または「可能性」や将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他類似した表現を含みます。将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいています。そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。新たな情報、将来の出来事やその他の発見に照らして、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。